淨曲百段 語り物の譯惣目錄

序文やら小言やら述懷やら……（別頁）自一頁至七十八頁
○產字の印可（二頁）○仙人（四頁）○理屈て義太夫は語れぬ（五頁）○曲育と學育（六頁）○訛り（七頁）○堀江座（八頁）○手爾波訛り（十頁）○品訛り（十一頁）○音訛り（十二頁）○大阪辨に尾張辨（十四頁）○義太夫語りの統計表（十八頁）○糸訛り（廿四）○文樂座の同黨異伐（廿七頁）○浮れ節（廿九頁）○天理敎（三十六頁）○藝道相談講（三十九頁）○杉木會（四十六頁）○さらかね本緣起（四十八頁）○著述難（五十頁）○「章」の事（五十二頁）○江戸冷泉（五十三頁）○早稻田文學（五十五頁）○表具と文彌（五十七頁）○出し物四季の別（六十頁）○聯合會と御座敷（六十四頁）○かはり調子（六十五頁）○能の番組（六十六頁）○洒落た出し物（六十七頁）○時代世話の區別（六十九頁）○大阪の播十（七十一頁）○祝儀席の出し物（七十四頁）○廣告の廣告（七十五頁）○質問五則（七十八頁）
一谷嫩軍記　須磨の浦（三段目）……一頁
仝　陣屋（三段目）……四頁

伊賀越道中双六　沼津（六段目）……五頁
仝　新關（七段目）……九頁
仝　岡崎（八段目）……十頁
伊賀越乘掛合羽　圓覺寺（四段目）……十一頁
妹脊山婦女庭訓　山（三段目）……十三頁
仝　杉酒屋（四段目）……十六頁
伊勢音頭戀寢刃　油屋（書き物）……十七頁
八陣守護城　政清本城（八冊目）……十九頁
花禮會稽禍布染　官次郎切腹（四段目）……二十一頁
花上野譽の石碑　志度寺（四段目）……二十二頁
花曇佐倉曙　宗五郎住家（七段目）……二十五頁
箱根靈驗鏡仇討　餞別（十段目）……二十八頁
仝　瀧（十一段目）……三十頁
艶姿女舞衣　酒屋（下の卷）……三十二頁
日蓮上人御法海　勸作住家（三段目）……三十三頁
本朝廿四孝　十種香（四段目）……三十六頁

（は）　（に）（ほ）

近頃河原の達引　猿廻し（下の卷）……三十九頁
中將姫古蹟之松　雪責（未詳）……四十三頁
驪山比翼塚　花川戸（八段目）……四十八頁
奥州安達原　袖萩祭文（三段目）……五十頁
和田合戰女舞鶴　尼君館（三段目）……五十二頁
苅萱桑門筑紫轢　高野山（五段目）……五十三頁
加賀見山廓寫本　又助住家（七段目）……五十五頁
加賀見山舊錦繪　草履打（六段目）……五十七頁
仝　長局（七段目）……五十九頁
敵討稚物語　百度平住家（書き物）……六十一頁
桂川連理柵　帶屋（下の卷）……六十三頁
假名手本忠臣藏　喧嘩場（三段目）……六十六頁
仝　判官切腹（四段目）……六十九頁
仝　勘平切腹（六段目）……七十一頁
仝　茶屋場（七段目）……七十四頁
仝　山科（九段目）……八十二頁

（ち）　（り）（を）（わ）（か）

(よ)(た)

鎌倉三代記　三浦別れ（七ッ目）……八十四頁
義經千本櫻　鮓屋（三段目）……八十六頁
太平記忠臣講釋　喜内住家（七段目）……九十頁
壇浦兜軍記　琴責（三段目）……九十二頁
田村麿鈴鹿合戰　平治住家（四段目）……九十六頁
伊達娘戀緋鹿子　八百屋（六卷目）……九十八頁
伊達競阿國戲場　埴生村（八段目）……九十九頁
仝　土橋（九段目）……百二頁
蓮如上人一代記　嫁威し（書き物）……百三頁
增補生寫朝顏話　濱松（三段目）……百四頁
仝　笑ひ藥（四段目）……百五頁
仝　宿屋（四段目）……百七頁
染模樣妹脊門松　質店（下の卷）……百十頁
孃景清八島日記　日向島（三段目）……百十三頁
楠　昔噺　德太夫住家（三段目）……百十一頁
傾城戀飛脚　新口村（下の卷）……百十五頁

(れ)(そ)

(む)(く)(け)

(ふ)(こ)

傾城阿波の鳴門　順禮歌（八段目）……百十八頁
傾城名筆鑑　將監住家（四段目）……百二十頁
源平布引瀧　綿繰馬（三段目）……百二十二頁
仝　松波琵琶（四段目）……百二十四頁
双蝶々曲輪日記　引窓（八段目）……百二十六頁
碁太平記白石噺　田植（四段目）……百二十八頁
仝　新吉原（七段目）……百二十九頁
木下蔭狹間合戰　竹中巖（七段目）……百三十二頁
仝　壬生村（九段目）……百三十四頁
國姓爺合戰　樓門（三段目）……百三十六頁
御所櫻堀川夜討　辨慶上使（三段目）……百三十八頁
戀女房染分手綱　沓掛村（六段目）……百四十頁
仝　馬子歌（十段目）……百四十三頁
戀娘昔八丈　城木屋（五段目）……百四十五頁
仝　鈴ヶ森（七段目）……百四十六頁
蝶花形名歌鳴臺　小阪部館（八段目）……百四十八頁

(て)

(あ)
茜染野中の隱井　聚樂町（下の卷）……百五十頁
明烏後正夢（雪廼曙）山家屋（書き物）……百五十二頁
近江源氏先陣館　盛綱陣屋（八段目）……百五十四頁
芦屋道滿大內鑑　狐子別れ（四段目）……百五十五頁
卅三間堂棟由來　平太郎住家（三段目）……百五十七頁
鬼一法眼三略卷　菊畑（三段目）……百六十頁
吉例曾我譚　對面（書き物）……百六十二頁
祇園祭禮信仰記　上烟屋（三段目）……百六十五頁
義士忠臣藏　本藏下屋敷（假に忠八）……百六十八頁
岸姫松響鑑　朝比奈上使（三段目）……百七十三頁
伽羅先代萩　竹の間（六段目）……百七十六頁
仝　御殿（六段目）……百七十七頁
仝　對決（九段目）……百七十九頁
三日太平記　松下住家（九段目）……百八十一頁
新版歌祭文　野崎村（上の卷）……百八十三頁
神靈矢口渡　頓兵衛內（四段目）……百八十六頁

(さ)(き)
(め)
(み)(し)

(ふ)
新薄雪物語　鍛冶屋（下の卷）……百八十八頁
時雨の炬燵　紙屋（下の卷）……百九十一頁
繪本太功記　本能寺（二日目）……百九十二頁
仝　尼ヶ崎（十日目）……百九十四頁
繪本玉藻前曦袂　道春館（三段目）……百九十五頁
日高相川入花王　眞那子莊司館（四段目）……百九十七頁
日吉丸稚櫻　駒木山城中（三段目）……百九十九頁
ひらかな盛衰記　笹引（三段目）……二百〇一頁
仝　神崎（四段目）……二百〇一頁
仝　逆櫓（三段目）……二百〇四頁
彥山權現誓助劔　毛谷村（九段目）……二百〇五頁
姫小松子の日遊　俊寬島物語（三段目）……二百〇八頁
攝津合邦辻　庵室（下の卷）……二百〇九頁
關取千兩幟　猪名川內（二段目）……二百十一頁
菅原傳授手習鑑　佐太村（三段目）……二百十四頁
仝　寺子屋（四段目）……二百十六頁

(ひ)
(せ)
(す)

菅原傳授手習鑑　松王屋敷（書き物）……二百二十頁
（以上百段）

淨曲百段　語り物の譯總目錄（終）

序

……文やら、小言やら、述懷やら、理屈やら、高慢やら……

此の「序文やら、小言やら、述懷やら」は、師匠名門二が昨年（三十八年）の夏、吾等門弟五六輩の爲に、毎夜の樣に、ビール片手に涼み臺にて、說話せられし雜談を始め其の後も、話もせられ、聞きもせし雜談の吾等初心の者には、心得になるべき事、面白き事も少なからず、と思へば。如是我聞と題し、各自勝手に筆記しぬ。それを今度取り纏め「語り物の譯」の卷首に添へんとす、素より稿を立て、筆を執りしものならねば、文に連續を欠き、文章も一定せず。且つ主義の一貫せざる處もあれども、これ、自然の事さて止むを得ず。依つて此の艸稿を師に示して添刪を乞ひしかど、たゞ「よいやうに」とばかりにて、敢て朱黃を加へられずさればとて、この儘やまんも殘り惜し、と思ふもの故、艸稿の儘これを印刷に附する事とはなれり。文責素より吾等にあり。不文を咎めて、名門二師匠を煩し給ふなと云ふ。

竹本其太夫　等敬白

此の語り物の譯を『さらかね本』の卷首に加へやうとしたは僕が創意で。從來こんな風に淨瑠璃を解釋したものは見ぬ。これは、今日以後の人々は兎もわれ、今日までの語人と云へば、嘉永、安政時代の茶瓶連で、普通教育も受けて居無い人々が多い。斯う申しては甚失禮ではあるが、マア文盲な人々だから、全部の筋や人形の性格なんぞに就いては、露程も研究をして居ない、稽古と云へば、師匠からの口移しで、ソレで其の師匠からして、アヤシイのだからたまらない。